

静観台グループ例会

於：サイエンスフィールド 2000. 11. 8

参加者 石浦（科学園）高松（仁美小）倉橋（幡多小）八谷（幡多小）福井（伊島小）

【ひねり万華鏡】 倉橋

さすがは倉橋先生。ただの万華鏡は作りません。本邦初！完全オリジナルの「ひねり万華鏡」を開発されました。中をのぞくと見たこともない不思議な世界が見られます。

【究極のシャボン液】 倉橋

2年前に岡山で「青少年のための科学の祭典」をやった時、究極のシャボン玉作りについて研究され、シャボン液についても一家言を持っておられます。その究極のシャボン液は…、界面活性剤40%以上の洗剤とPVA糊、水を1:5:10の比率で作ります。作って何日か置いておくのもコツですね。

【レインボーシート】 福井

先週紹介したレインボーシートですが、A4サイズ位でも十分に天井に虹を作れることが分かりました。今回の参加者には無料で分けてあげました。

【個別懇談の必殺技】 福井

1日に20人近くの保護者と話し合う個別懇談。苦手な人も少なくないはず。今回の必殺技は相互評価を利用したもので、簡単な準備で保護者に喜ばれること間違いなしです。

【起き上がる虹】 福井

CDにビー玉をつけてコマのように回し、上からライトで光を当てると虹がオーロラのように起き上がって見えます。

【ラビリンスBOX】 福井

ミラー板を使った立体万華鏡です。ミラー版で立方体の箱を作り、外側にカッターナイフで切り込みを入れ、セロハンを貼ると、中に幻想的な光のオブジェが浮き上がります。

【キャッチ・ザ・シャドー】 福井

暗室でストロボをたくと一瞬壁に影ができます。ところが、この影は本人が立ち去っても、その場所に残ってしまいます。ピーターパンみたいですね。蓄光塗料を使ったこの実験は、サンフランシスコのエクスペラトリウムという科学館から仕入れてきました。

【本紹介】 高松

最近例会で話題になっているシャボン玉や光について高松さんが本を紹介してくれました。

「シャボン玉は生きている」たくさんのふしぎ、1933年10月号、福音館

「色はどうして見えるの」はてなクラブ、1994年11月号、朝日こども百科、朝日新聞社

